

ビジネスパートナーとともに

良質な製品・サービスを安定的にお客様へお届けし続けるためには、原材料の調達先やビジネスに関わる様々なパートナーとの連携が欠かせません。CSRの取り組みも、企業単体やそのグループ会社だけでなく、ビジネスのすべてに関わるサプライチェーン全体で取り組むことが必要となっています。

ビジネスパートナーとの取り組みを加速

事業を通じた持続可能な社会の実現に貢献するためには、ビジネスパートナーとの公正・公平な取引を徹底するとともに、法令遵守、人権・労働、品質、環境など、サプライチェーン全体において期待される社会的責任を果たしていくことが重要だと私たち三井金属グループは理解しています。サプライチェーンの効率化とリスクマネジメントを進めるとともに、ビジネスパートナーとのCSR取り組みの連携・共有化も図ってまいります。これからは、三井金属グループとして、まずは「CSR調達基本方針」の策定を進め、ビジネスパートナーとの連携をより強化するために、方針説明会や、パートナーにおけるCSR取り組み状況をトレースするためのアンケート、現地でのヒアリングなども実施することを計画しています。

公平・公正な取引のために

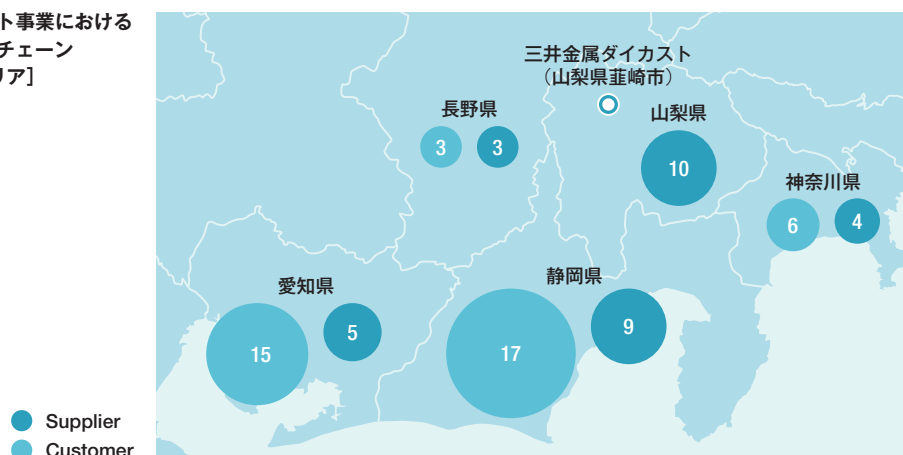
自由で公平な競争の保護と促進に努め、市場での競争を確保することで良質な製品・サービスを低価格で消費者に提供するという社会的利益を守ります。三井金属グループでは、独占禁止法の趣旨を尊重し、そして独占禁止法を遵守しています。

独占禁止法に関するコンプライアンス・ガイドブックを2014年に作成し、グループ内へ配布するとともに、公正取引に関するセミナーなども法務部が実施しています。

また、下請け取引の公正化、下請事業者の利益保護にも努めています。お取引先が下請法の対象となる事業者である場合の義務や禁止事項について徹底し、公平・公正なビジネス関係を堅持するために、セミナーを実施するなど法務部がグループ内への啓蒙を図っています。

公平・公正な取引を貫くための指針として、行動規準第4条に「公正な事業活動」を掲げています。

ダイカスト事業における
サプライチェーン
[近県エリア]



三井金属アクトにおける取り組み

三井金属アクト株式会社を中心とする自動車部品事業は、三井金属グループの中でもとくにグローバル展開が進んでいる事業のひとつです。

ドアロック事業世界一を目指す三井金属アクトにとって、最高の品質と競争力ある原価の追求は日常に不可欠の要素であり、そのためには取引先様各社との不断の協働が欠かせません。

グローバルに事業エリアを分けて受け持つビジネスユニットごとに、取引先様に事業方針、購買方針を共有いただき、また、取引先様の課題の共有などを図る場として、サプライヤー説明会を定期的に開催しています。

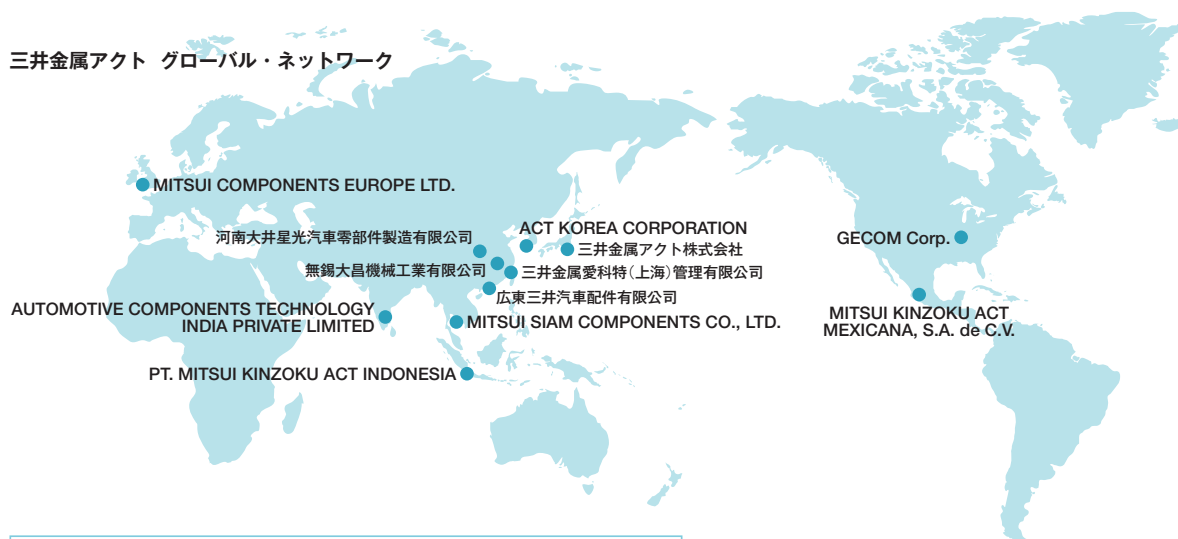


三井金属アクトグループとしての購買方針グローバル・サプライヤー説明会

日本国内でのサプライヤー説明会 (横浜開催・写真左)
 欧米ビジネスユニットでのサプライヤー説明会 (ACT MEXICANA開催・写真中)
 東アジアビジネスユニットでのサプライヤー説明会 (Si Racha開催・写真右上)
 中国ビジネスユニットでのサプライヤー説明会 (広州開催・写真右下)



三井金属アクト グローバル・ネットワーク



三井金属アクト 購買方針

1. グローバルな最適購買の推進

当社では世界各地で優れた部材を提供して頂けるパートナーを探しております。国内外を問わず取引の機会を提供することで最適購買を推進してまいります。

2. 業界トップレベルのQCDの追求

当社では品質・価格・納期対応など総合的な観点からサプライヤー選定を行ない、サプライヤーと相互に発展出来る良い取引関係を築いてまいりたいと考えています。

3. 新技術・新工法・新材料によるコストダウンの実現

既存の技術や工法にこだわらず、積極的にVE / VA活動によるご提案のできるサプライヤーを重視しています。

三井金属アクトにおける主要購買品目

- 原材料 (鋼材) ■ 原材料 (樹脂材料)
- プレス部品 (一般プレス、ファインブランピング)
- 樹脂成形部品 ■ ゴム成形部品 ■ ヘッダー部品
- 表面処理 (鍍金、塗装) ■ 熱処理
- 電装部品 (モーター、コントロールユニット、スイッチ等)
- スプリング ■ 金型 (プレス、樹脂成形) ■ 梱包資材

品質保証と向上への取り組み

エレクトロニクスや自動車産業などお客様の広がりとともに、事業領域を拡大しグローバル化を進める中で、安全で十分な品質の製品・サービスを提供する責任は、一層増しているとの認識を私たち三井金属グループは強めています。

品質に対する基本的な考え方

資源開発と製錬事業をそのルーツとし、非鉄金属地金から、エレクトロニクスなど各産業向けのさまざまな機能材料、自動車用機能部品などの組立加工、さらにはエンジニアリング事業などの技術サービスの提供と、三井金属グループの製品・サービスの領域は広がっています。

各事業分野、国内外の各拠点での品質への取り組みを貫く規準として、「品質基本方針」を2012年に定め、安全で優れた品質をもつ、お客様に満足いただける製品作りを追求しています。

品質基本方針

【理念】 三井金属グループは、お客様の声を財産と考え、常に最適な品質の実現に努めます。

- 【方針】**
1. お客様のニーズを先取りし、満足いただける製品・サービスをお届けします。
 2. 品質を業務の質ととらえ、全員参加とスピード重視で品質向上を図ります。
 3. 十分な品質保証の実現のため、各事業分野に適した品質保証体制を構築し、そのレベルアップに努めます。

この基本方針は、三井金属グループの全世界の各所社に適用する。

品質保証を支える仕組み

1984年に全社で「品質管理規則」を定め、三井金属グループのすべての役員と従業員は、お客様に対する品質保証のために、それぞれの事業部門に適合した品質保証体系を構築し、達成することを掲げています。

また、品質管理規則の中で、グループのすべての従業員は、人材の育成、職場の活性化、業務改善を目的として、業務の一環としてグループ活動[※]に取り組むことも謳っています。品質の保証・向上とともに、働く一人ひとりの人間性を尊重し、その能力を引き出し、強い現場を創造するための「ひとづくり」も同時に目指すものです。

三井金属グループ各所社でのグループ活動の推進、各地区、さらには全社での推進を図るべく、各レベルでグループ活動推進事務局も設置しています。相互研鑽や活動事例の共有のために、各レベルでの活動発表会も定期的に開催しています。

ほかに、「QC的な考え方と手法」や「統計手法」についてなど、品質に関するベーシックスキル習得のための集合研修を、各階層を対象に年間を通じて開催しています。

※グループ活動 小集団による業務改善活動を、三井金属では「グループ活動」と呼んでいます。



2015年度、全社でのグループ活動発表大会より。

管理技術の教育体系 4級=係長職、5～6級=総括職、7～8級=主任職 にあたりず。



16中計 グループ活動推進スローガン
「すべての職場で現状打破」
 ～自分を変えよう 職場を変えよう～

【すべての職場】
 三井金属グループ全世界、全部門、全職場において

【現状打破】
 現状に満足せず常に問題意識をもち、改善活動に取り組む

【サブメッセージについて】
 活動による自己の成長と職場の変革、三井金属の体質改善を期待

職級	知識教育	知識+実習教育		実践教育	
4級		QC的な考え方と手法(中級)			部門統計専門家 [計画中]
5級			PSDM (KT法)	QCの問題解決講座	
6級	6級研修				
7級	入社3年目研修	QC的な考え方と手法(初級)	統計(初級)		IE(初級)
8級					
	新入社員研修				

品質マネジメントシステムの構築

三井金属グループでは、事業部門ごとに定められた品質管理システムに従い、適正な品質管理を行なっています。品質管理上取得が必要と判断した製造拠点につきましては、ISO9001をはじめとする規格認証を取得しています。

国内における品質マネジメント ISO9001の取得状況

【三井金属の事業部門】

- 電池材料事業部 (各拠点)
- 銅箔事業部 (上尾)
- 金属事業部 (亜鉛関連、各拠点)
- パーライト事業部 (各拠点)
- 触媒事業部 (各拠点)
- 薄膜材料事業部 (各拠点)
- 金属事業部 (リサイクル関連)
- 化成品事業担当部 (各拠点)
- 機能粉事業部 (各拠点)
- セラミックス事業部
- 銅事業統括部 (日比製煉所)

【三井金属グループ企業※1】

- 日本結晶光学株式会社
- 三井金属アクト株式会社※2
- 九州精密機器株式会社
- 株式会社ナカボーテック
- パウダーテック株式会社
- 三井研削砥石株式会社
- 三井金属計測機工株式会社
- 吉野川電線株式会社
- 日本イトリウム株式会社
- 三井金属ダイカスト株式会社
- 三谷伸銅株式会社
- 三井金属エンジニアリング株式会社
- 八戸製錬株式会社
- 神岡部品工業株式会社
- 三井住友金属鉱山伸銅株式会社

※1 持分法適用会社も含んでいます。 ※2 三井金属アクトは「ISO/TS16949」による認証を取得しています。



ドア閉音を無響室で確かめる、心理音響技術を用いた解析実験の様子。(三井金属アクト)



管理技術研修。

地域に根ざした活動こそが

地域や社会への貢献、と声を大にして言うようなことではありませんが、三井金属グループの各事業所、各社が、その一人ひとりが、コツコツと取り組んでいることがあります。ステークホルダーの皆様にも共有いただければ幸いです。いくつかをご紹介します。

少しずつでも 地域のためにできること



MITSUI KINZOKU COMPONENTS INDIA (以下、MKCI) は、インドにおける触媒事業の拠点です。現地へ進出してから既に11年が経過し、従業員も300名を超える規模にまでなりました。

MKCIでは、年中行事のひとつとして全社スポーツ大会を開催しており、今年も2月に開かれました。社員のモチベーション高揚と社内コミュニケーションの充実、駐在日本人スタッフと現地ナショナルスタッフ(触媒事業においては現地スタッフのことを、ローカルスタッフではなく、ナショナルスタッフと呼んでいます)の交流にとても役立っているようです。

また、MKCIでは、地元の政府系病院や学校から要請があれば、実際に現地を視察し、必要なものを贈っています。昨年は公立学校に机と椅子を150セット、公立病院に救急車2台を寄贈するなど、皆様に役立てていただいています。

今年も地元の公立病院での設備の老朽化の話聴き、新しい検査設備を寄贈しました。(2016年2月)

ベトナムの貴重な資源を 活かすために

「日越レアアース共同研究プロジェクト」とは、日本とベトナム両国政府が2011年に取り交わした「ベトナム国レアアース資源の採鉱・開発分野での研究と技術的協力」に関する覚書に基づき、日本から官民一体で探査や製錬技術を供与し、ベトナムにおけるレアアース開発を支援する取り組みです。

日本側からは、独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構(JOGMEC)を中心に、民間企業数社が協力しました。2011年から2016年3月までの5年間、鉱石処理からレアアースの分離精製に関する共同研究に、私たちのグループ会社である日本イトリウム株式会社の技術者が携わりました。レアアースを回収するための溶媒抽出分離・精製試験を担当し、レアアース回収技術の指導および技術者の育成に貢献したことが評価され、4月15日ベトナム科学技術省で開催されたこの共同研究プロジェクトの式典において表彰を受けました。

三井金属グループでは培った技術の数々を、海外での技術支援にも役立てています。(2016年4月)



安全・防災を 地域の皆様とともに



竹原製煉所(広島県竹原市)主催で、呉海上保安部指導の下、海上への重油流出事故を想定した海上防災対策訓練を実施しました。

この訓練は、近隣の関係する機関が協力して被害を最小限にするべく、海上防災対策体制の充実と強化を図ることを狙いとするものです。竹原地区に拠点をもち4つの企業が交替で主催し実施しています。

今回は竹原製煉所の重油バースに接岸中のタンカーから送油中にバルブが破損、大量の重油が海上に流出したことを想定し、発生情報の伝達、対策本部の設置にはじまり、流出油拡散防止・回収のため、竹原製煉所の内港警備隊・消防自動車隊によるオイルフェンスや油吸着マットの設置などを実際に訓練しました。呉海上保安部の巡視艇「くれかぜ」も出動し、海上保安部との連携についても確認しました。

まずは事故を発生させないことが第一ですが、予期せず事故が発生した際にも迅速かつ確に対応できるよう、こうした訓練をグループ各拠点で実施してまいります。(2015年10月)

まさに事業を通じての 社会貢献に

株式会社ユアソフトは、三井金属の情報システム部門が1989年に独立してできたITソリューションを提供するシステムエンジニアリング企業です。ユアソフトが、「税務書類のスキャナ保存申請」をワークフローシステムで実現し、先進的な事例であるとして、公益社団法人日本文書情報マネジメント協会より「ベストプラクティス賞」を受賞しました。

ワークフローシステムとは、コンピューターとネットワークを利用して、一連の業務を効率よく行なうためのシステムです。電子化された申請書などを予め設計された作業手順に従い、集配信や決裁処理を行ない、事務作業のスピード向上、業務効率化、内部統制強化などに役立ちます。

技術面の課題解決とともに、ユアソフトは名古屋国税局に相談をしながら一つひとつ法的要件もクリアし、このシステムを実現しました。

世の中の困りごと、課題の解決に貢献したい、それは金属素材や製品の開発だけではないということを示してくれました。(2015年9月)



科学の面白さと興奮を 子どもたちに



三井金属 基礎評価研究所(埼玉県上尾市)で、上尾市・伊奈町・桶川市の教育委員会が主催する「子ども大学」の授業が行なわれました。

子ども大学は、地元の小学校5・6年生を対象に、大学のキャンパスや企業などで学ぶ「子どものための大学」です。基礎評価研究所は、「研究所を探検！素材の秘密を調べよう」というテーマで、スタンプラリーを楽しみながら、体験型学習を中心とした授業を企画しました。

白衣をまといて所内を探検し、身近にある物の素材や構造を顕微鏡で実際に観察したりして、「いろんなモノの構造を知ることができて楽しかった」「見たこともない装置ばかりでとてもワクワクした」など、終了後のアンケートでは参加した子どもたち全員が「楽しかった」と答えてくれるほど、授業は大好評だったようです。

一人でも多くの子どもに科学に興味を持ってもらい、将来の夢につなげてもらえるよう、三井金属ではこれからもこういう機会を積極的に設けていきます。(2015年8月)

地域の皆様のご理解と ご協力に感謝して

彦島製錬株式会社(山口県下関市)は今年2016年に操業100周年を迎えました。その大きな節目の記念とし、地域の方々へ感謝の意をこめ、地元である西山町自治会へ、町内の祭りで使用

する「やぐら」の寄贈と、自治会活動支援として寄付金をお贈りしました。1970年に作られたやぐらの老朽化が目立っていたため、約50年前の図面を基に忠実に半年かけて手作りされました。同じ大きさの新しいやぐらを寄贈。8月10日に引き渡しと使用始め神事が執り行なわれ、お盆に開催された盆供養祭で地域住民の皆様にお披露目されました。この様子は地元新聞にも大きく掲載され話題となりました。引き渡し式では西山町自治会長より「立派なやぐらを寄贈していただき感謝している。気持ちを新たに町づくりに努めたい」と感謝の言葉をいただきました。

また、寄付金は地域のゴミステーションの更新に活用いただき、地域住民皆

さんのお役に立ちました。次の新たな100年も、地域の皆様とともに歩んでいきます。(2016年8月)



宇宙線研究 最先端の山

まず何よりも、研究に日々取り組まれている方々に敬意を表しますとともに、私たちの鉱山が、「科学の山」「宇宙線研究最先端の山」と呼ばれるようになったことを嬉しく、誇りに思います。これからも、私たちができるサポートを続けてまいります。

2度目のノーベル物理学賞受賞

2015年ノーベル物理学賞を東京大学宇宙線研究所梶田隆章所長が受賞されたことは既に報道を通じてご存知のことでしょう。

当社グループ企業である神岡鉱業が有する鉱山、神岡鉱山（岐阜県飛騨市）の地下1,000mにある観測施設「スーパーカミオカンデ」での実験により、物質の最小単位である素粒子のひとつ、ニュートリノに質量があることを発見され、質量がないと言われてきたこれまでの定説を覆し、宇宙誕生の謎の解明に迫る大発見、科学の大きな功績として、梶田所長はノーベル物理学賞の栄誉に輝かれました。

2002年には、小柴昌俊東京大学特別荣誉教授がカミオカンデで、ニュートリノを世界で初めて観測したことにより、やはりノーベル物理学賞を受賞されています。

カミオカンデ、その後継のスーパーカミオカンデとも、当社が永年培ってきた鉱山技術を用いて、鉱山内の空間建設を行ないました。

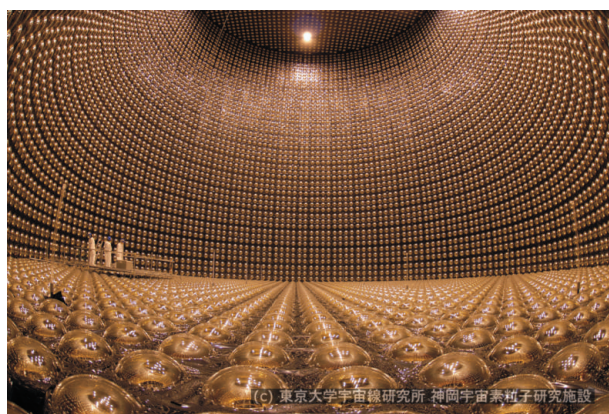
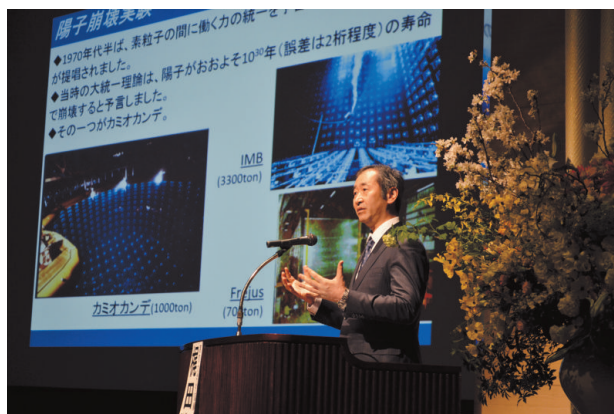
神岡の地が観測場所に選ばれたこと、当社グループの岩盤エンジニアリングを通じて貴重な研究施設の建設に貢献することができ、そして2人目のノーベル賞受賞者が誕生したことは、私たち三井金属グループの皆にとってもたいへん誇らしくかつ喜ばしいことでした。

左上：研究を支えた企業として当社も参加しましたノーベル物理学賞受賞記念イベント「科学をめざす君たちへ」にて、講演される梶田隆章所長。2016年3月29日。

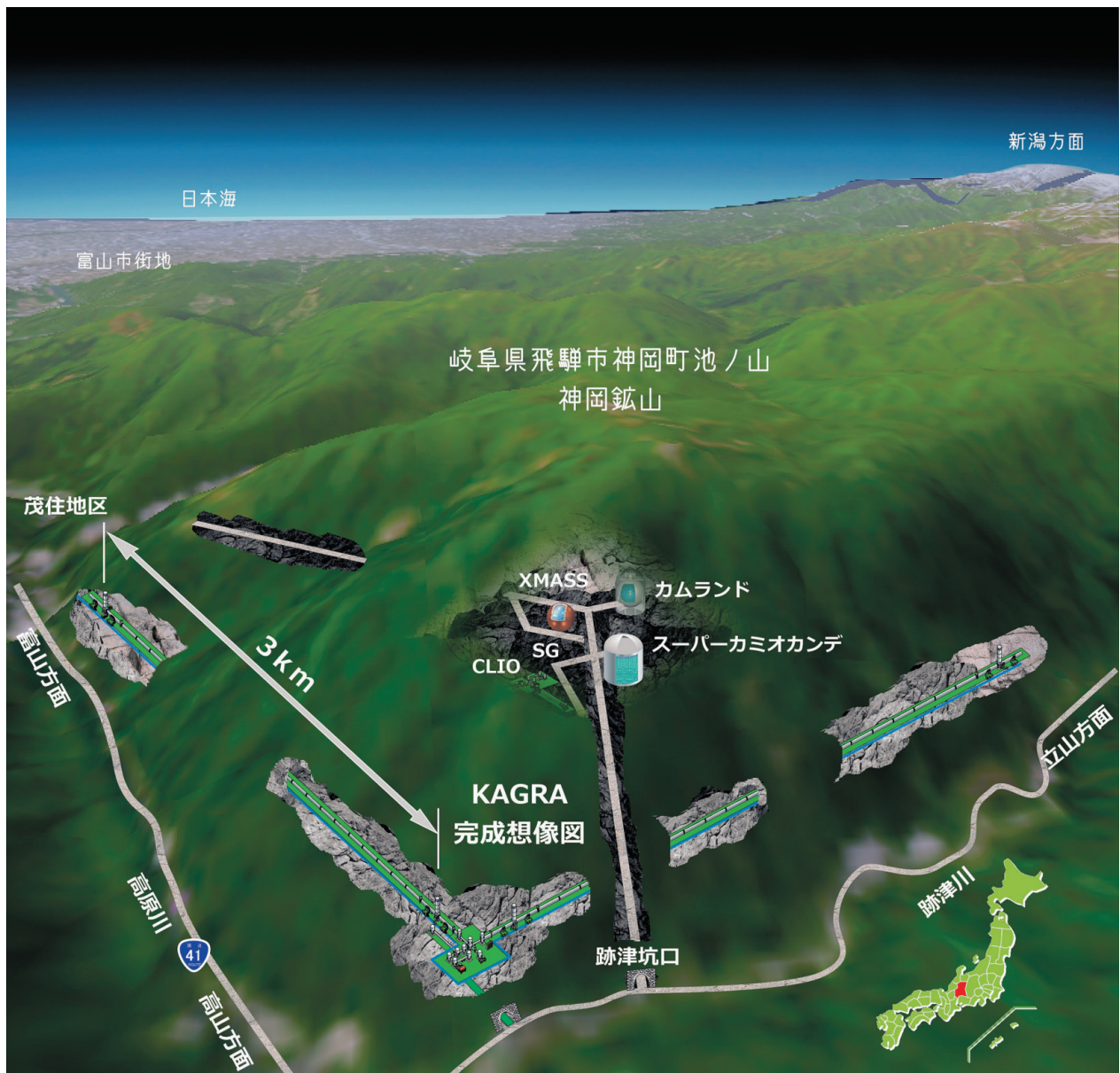
右上：スーパーカミオカンデは、5万トンの超純水を蓄えるために、直径39.3m、高さ41.4mという円筒形水タンクを備えています。坑内にそれを収めるための大きな空洞が必要でした。その掘削工事は2年余りを費やし、1994年6月に完了しました。石油やガスの資源開発におけるボーリングや、また露天掘りとも異なり、地下の鉱脈から採掘する、いわゆる「地下掘り（坑内掘り）」は坑内を縦横無尽に掘る技術が必要です。

左下：鉱山内の坑道が総延長1,000kmを超える神岡鉱山、そこで培った私たちの掘削の技術が地下研究施設の建設に役立ちました。三井金属の社名に生きる「鉱業（Mining）」のまさに面目躍如です。写真は神岡坑内の掘削重機、2ブームモービルジャンボ。

右下：水タンクに取り付けられた光電子増倍管。水中を走った荷電粒子から発するチェレンコフ光をとらえる光センサーであり、まさにスーパーカミオカンデの眼の部分です。世界最大サイズの増倍管が、約1万3,000本も取り付けられているそうです。データ観測中の現在は、純水で満たされており、タンク内を見ることはできません。



提供 東京大学宇宙線研究所 神岡宇宙素粒子研究施設



提供 東京大学宇宙線研究所 重力波観測研究施設

さらなる科学の進展とともに

さらに次世代の観測施設も計画されています。ハイパーカミオカンデは、現在のスーパーカミオカンデよりもさらに巨大な純水タンクを備える超大型観測設備です。

素粒子を観察する「顕微鏡」であると同時に、飛来するニュートリノを用いて太陽や超新星爆発を見る「望遠鏡」としての機能も有し、陽子崩壊の発見やニュートリノ・反ニュートリノの性質の違いの発見、超新星爆発ニュートリノの観測などを通して、素粒子の統一理論や宇宙の進化史の解明を目指すものです。国際研究プロジェクトとして世界の研究者が協力し、2026年の実験開始が計画されています。

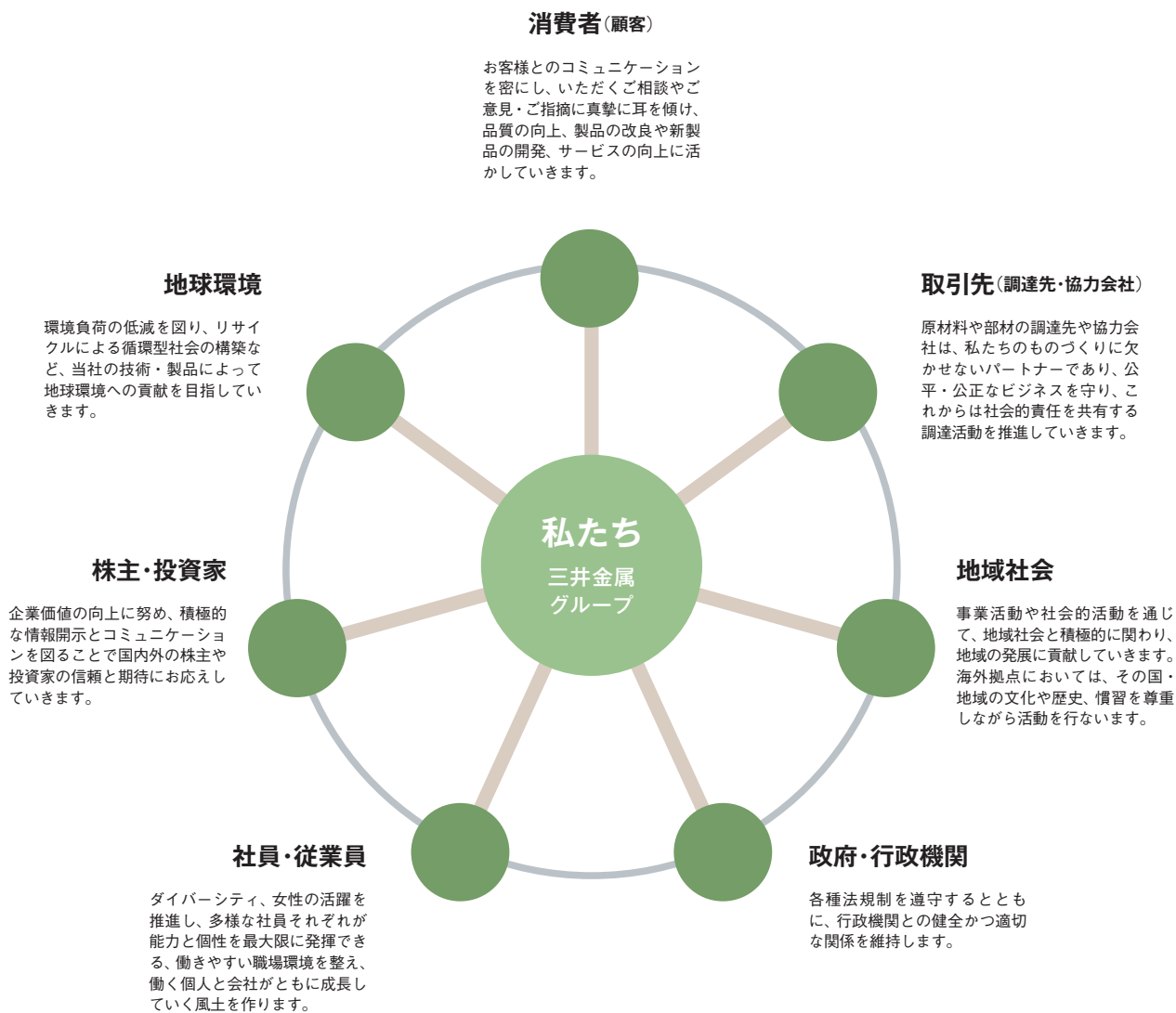
また、重力波を観測で捉えようとする試みも行なわれています。

鉱山内に総延長7kmを超えるトンネルをめぐらせ、「地下から宇宙を観測する望遠鏡」と呼ばれる重力波観測装置「KAGRA(かぐら)」です。東京大学宇宙線研究所の重力波グループが中心となって構想されたプロジェクトです。既にトンネル掘削工事から施設の建設まで終えて、本格観測へ向けた稼働実験を現在は行なっています。

1400年余りの歴史をもつ神岡鉱山、宇宙の謎に迫る世界最先端の研究施設がその鉱山の中に次々と誕生しています。

ステークホルダーの皆様との関わり

私たち三井金属グループは、すべてのステークホルダーの皆様とコミュニケーションを図ることを行動規準の中に掲げています。適切な情報開示に努め、日常的な対話、コミュニケーションの機会を積極的に設け、相互の理解を深めながら、ステークホルダーの皆様の声を経営に取り入れてまいります。



スムーズな対話の仕組みを

私たちはさまざまなステークホルダーと関わりながら事業活動を行なっています。それぞれ皆様のご意見やご期待を受け止めることが重要であると理解しております。ステークホルダーの皆様の要請や期待に応えた活動となっているか、それを検証できる仕組みをこれから構築していきます。

Corporate profile and consolidated data

[社名]

三井金属鉱業株式会社 (MITSUI MINING & SMELTING CO.,LTD.)
 <呼称=三井金属/MITSUI KINZOKU >

[設立]

1950年(昭和25年)5月1日

[所在地]

東京都品川区大崎 1-11-1

[資本金]

421億2,946万円(2016年3月末)

[売上高]

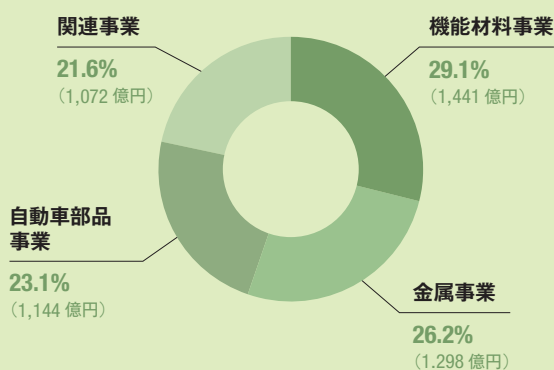
連結 4,505億5,300万円(2016年3月期)
 単体 1,983億5,100万円(2016年3月期)

[従業員数]

連結 11,132名 単体 1,663名 (2016年3月末)

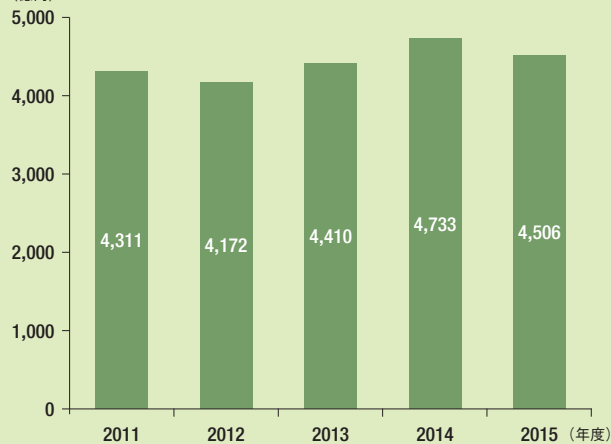
連結売上高の事業分野別内訳

2015年度



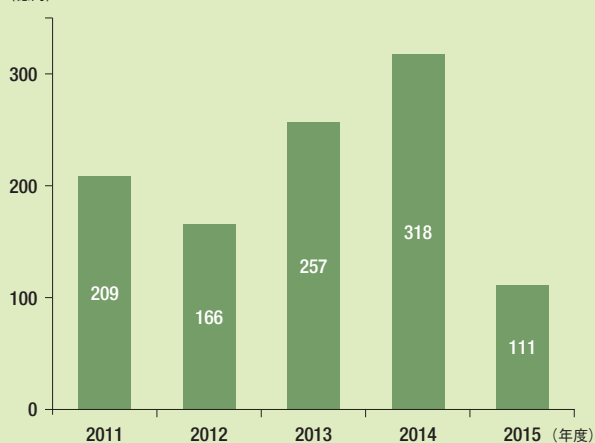
連結売上高の推移

(億円)



連結営業利益の推移

(億円)



連結総資産の推移

(億円)



CSR報告書2016は、環境に配慮した印刷物として以下のマークが付与されています。



この印刷物を印刷及び製本する際の電力量(300kWh)は、自然エネルギーでまかなわれています。

こちらの報告書PDFは、認証紙に印刷された認証印刷物のデータを使用して制作しました。



三井金属

三井金属鉱業株式会社
広報部 CSR室

〒141-8584 東京都品川区大崎 1-11-1
Tel 03-5437-8028 Fax 03-5437-8029
E-mail PR@mitsui-kinzoku.co.jp
URL <http://www.mitsui-kinzoku.co.jp>